お知らせ

2026 年度第 3 回近畿支部講演会

主催　(公社)日本分析化学会近畿支部・近畿分析技術研究懇話会

期日　2026 年 12 月 4 日（金）15.00〜17.00

会場　大阪科学技術センター 7 階 701 号室〔大阪市西区靭本町 1−8−4，電話：06−6443−5324，交通：地下鉄四つ橋線「本町」駅下車，北へ徒歩約 7 分．うつぼ公園北詰〕

講演

1. 錯体化学から分析化学へ
〜多くの化学者と出会って 45 年〜（15.00〜16.00）
（龍谷大学）藤原　学
2. 花崗岩岩石学を拓く分析化学（16.00〜17.00）
（関西学院大学）下岡和也

参加費　無料

参加申込　標記行事名を題記し，(1) 氏名，(2) 勤務先（所属），(3) 連絡先を記入のうえ，下記申込先へ FAX または E-mail にてお申し込みください．なお，参加証は発行いたしませんので，当日は直接会場にお越しください．

申込先　〒550−0004　大阪市西区靱本町 1−8−4　(公社)日本分析化学会近畿支部〔電話：06−6441−5531，FAX：06−6443−6685，E-mail：mail@bunkin.org〕

※詳細は，近畿支部ホームページ（http://www.bunkin.org/）にてご確認ください．

第 426 回液体クロマトグラフィー研究懇談会

主催　(公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会

後援　(公社)日本化学会，(公社)日本農芸化学会，(公社)日本分析化学会，(公社)日本薬学会

分取・精製は，目的化合物の単離・精製に不可欠な工程であり，分取 LC はその中核技術として広く利用されています．一方で，分析条件から分取条件への変換，試料負荷量の最適化，回収率や純度の向上など，多くの実務的課題が存在します．本例会では，分取 LC の基礎から最新の装置技術，実際のアプリケーション事例までを紹介し，研究開発などに役立つ実践的な知見を共有します．

期日　2026 年 12 月 22 日（火）13.00〜17.00

会場　㈱島津製作所東京支社イベントホール〔東京都千代田区神田錦町 1−3，交通：①地下鉄：都営新宿線小川町駅，東京メトロ千代田線新御茶ノ水駅，東京メトロ丸の内線淡路町駅の B7 出口より徒歩 6 分，東京メトロ銀座線神田駅より徒歩 10 分，② JR 神田駅西口より徒歩 10 分〕
https://www.shimadzu.co.jp/aboutus/company/access/tokyo.html

講演主題　分取・精製の実践と最新技術

講演

講演主題概説（オーガナイザー）（13.00〜13.05）
（(一財)化学物質評価研究機構）坂牧　寛
（LC 分析士三段，LC/MS 分析士二段）

1. 分取 LC の基礎とテクニック（13.05〜13.35）
（ジーエルサイエンス㈱）太田茂徳
（LC 分析士二段）
2. 分取超臨界流体クロマトグラフィー
基礎から応用まで（13.35〜14.05）
（日本分光㈱）堀川愛晃
（LC 分析士二段）
3. バイオモダリティの分離及び精製（14.05〜14.35）
（東ソー㈱）伊藤誠治
（LC 分析士五段，LC/MS 分析士二段）
4. 分取精製における自動スケールアップとオンライン分取精製システムによる業務効率化（14.35〜15.05）
(㈱島津製作所）廣田章太郎
（LC 分析士初段）

休憩（15.05〜15.20）

5. バイオエコノミーに資する生体由来有用成分の分取精製（15.20〜15.50）
((一財)化学物質評価研究機構）坂牧　寛
（LC 分析士三段，LC/MS 分析士二段）
6. 高分解能モノリスキャピラリーカラムを用いる植物由来複雑成分系の精密分離・精密分取・解析の実践（15.50〜16.20）
（アクアス㈱）小林宏資
（LC 分析士三段，LC/MS 分析士初段）
7. 総括「分取・精製の実践と最新技術」（16.20〜16.50）
（東京理科大学）中村　洋
（LC マイスター，LC/MS マイスター）

参加費　①学生：1,000 円，② LC 懇・個人会員：2,000 円，③ LC 懇・団体会員：3,000 円，④後援学会・個人会員：4,000 円，⑤後援学会・団体会員：4,500 円，⑥その他：5,000 円（適格請求書発行登録事業者番号：T7−0107−0500−1780 が入った電子領収書の発行は，送金月日にかかわらず 2026 年 12 月 23 日以降となります．請求書は発行しません）．
参加申込締切後の受付はできませんので，ご了承ください．

情報交換会　終了後，講師を囲んで情報交換会を開催します（会費 5,000 円）．参加申込締切後のご参加はできませんので，参加希望者は必ず事前にお申し込みください．

参加申込および参加費等納入締切日
2026 年 12 月 11 日（金）（入金締切時刻：15 時まで）

申込方法

1. 参加希望者は，下記申込先にアクセスし，氏名，勤務先（電話番号），LC 会員・協賛学会会員・その他の別および情報交換会参加の有無を明記のうえ，お申込みください．なお，参加者名と振込者名が違う場合は，参加申込書の連絡事項欄に振込者名を明記してください．
2. お申込みが完了した場合には，登録されたアドレス欄に「第 426 回液体クロマトグラフィー研究懇談会申込み受付（自動返信）」のメールが届きます．自動返戻メールが 24 時間以内に届かない場合は，①入力したご自分のアドレスに間違いがないか，②迷惑メールフォルダーをご確認のうえ，世話人までお問い合わせください．
3. 申込み受付のメールを受領後，期限内に参加費納入が確認できない場合，お申込みを無効とし参加 URL を発行しませんので，十分ご注意ください．当日払いは受け付けません．なお，いったん納入された参加費は，返金いたしません．
4. 参加費の納入が確認できた方には，2026 年 12 月 15 日（参加申込日の翌日）以降に要旨集をメールにてお送りいたします．必要に応じてプリントアウトしてご参加ください．なお，請求書の発行はいたしておりません．

液体クロマトグラフィー研究懇談会（例会）参加費送金時のご注意

例会参加費，情報交換会費を送金される場合，下記を禁止しておりますので，ご理解のほどよろしくお願いいたします．

1. 複数例会の参加費の同時振込
（→例会ごとに振り込んでください）
2. 複数参加者の参加費の同時振込
（→参加者ごとに振り込んでください）
3. 年会費や他の費用との合算振込
（→費目ごとに振り込んでください）

申込先　https://forms.gle/VnjFVsb2d8qgPZ2F6
（学生申込者は，所属欄に大学名，学部，学年を記載）

銀行送金先　りそな銀行五反田支店（普通）1754341，口座名

義：シヤ）ニホンブンセキカガクカイ〔公益社団法人日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会〕
問合先　(公社)日本分析化学会・液体クロマトグラフィー研究懇談会　世話人（化学物質評価研究機構）坂牧　寛
〔E-mail：sakamaki-hiroshi@ceri.jp〕

――以下の各件は本会が共催・協賛・後援等をする行事です――

◎詳細は主催者のホームページ等でご確認ください.

KISTEC 教育講座「～身体の動きと調和する「やわらかい製品」作りをめざして～材料・設計から考えるソフトロボット入門」

主催　神奈川県立産業技術総合研究所
期日　2026 年 11 月 6 日（金）
会場　ロボリンク（Robo Link）
ホームページ
https://www.kistec.jp/learn/
連絡先　〒213−0012　神奈川県川崎市高津区坂戸 3−2−1 KSP 東棟 1F　溝の口支所　神奈川県立産業技術総合研究所 人材育成部教育研修課教育研修グループ　佐伯有香里
〔電話：044−819−2033，E-mail：manabi@kistec.jp〕

KISTEC 教育講座「ゼロから始める Python データ分析入門 ― Google Colab で学ぶ統計・機械学習の基礎―」

主催　神奈川県立産業技術総合研究所
期日　2026 年 11 月 12 日（木）・13 日（金）
会場　オンライン
ホームページ
https://www.kistec.jp/learn/dataanal/
連絡先　〒213−0012　神奈川県川崎市高津区坂戸 3−2−1 KSP 東棟 1F 溝の口支所　神奈川県立産業技術総合研究所 人材育成部教育研修課教育研修グループ　佐伯有香里
〔電話：044−819−2033，E-mail：manabi@kistec.jp〕

日本金属学会オンライン教育講座「構造材料の観察・分析技術（1）：バルク組成分析」

主催　(公社)日本金属学会
期日　2026 年 11 月 12 日（木）・13 日（金）
会場　オンライン
ホームページ
https://www.jim.or.jp/seminersymposium/
連絡先　〒980−8544　宮城県仙台市青葉区一番町 1−14−32 (公社)日本金属学会　セミナー・シンポジウム係
〔電話：022−223−3685，E-mail：meeting@jimm.jp〕

テラヘルツ科学の最先端 XIII

主催　日本分光学会 テラヘルツ分光部会，JST ASPIRE，応用物理学会テラヘルツ電磁波技術研究会，電子情報通信学会マイクロ波テラヘルツ光電子技術研究専門委員会，テラヘルツテクノロジーフォーラム，日本光学会テラヘルツ波科学技術産学連携専門委員会
期日　2026 年 11 月 16 日（月）・17 日（火）
会場　名古屋大学 ES 総合館

ホームページ
https://thzscience.jpn.org/2026/
連絡先　東京都千代田区内神田 1−11−6　大丸アネックス 201 号室　(公社)日本分光学会　テラヘルツ分光部会　シンポジウム幹事　味戸克裕〔電話：090−7639−4334，E-mail：ajito.katsuhiro@ok.iput.ac.jp〕

腐食防食部門委員会第 369 回例会

主催　(公社)日本材料学会
期日　2026 年 11 月 16 日（月）
会場　大阪府教育会館たかつガーデン地下 1 階オリーブ
ホームページ
http://www.jsms.jp
連絡先　〒606−8301　京都府京都市左京区吉田泉殿町 1−101　(公社)日本材料学会〔電話：E-mail：jimu@office.jsms.jp〕

第 318 回ゴム技術シンポジウム
ゴム分析の基礎・分析事例・劣化解析

主催　(一社)日本ゴム協会分析研究分科会
期日　2026 年 11 月 20 日（金）
会場　東部ビル 5 階
ホームページ
https://www.srij.or.jp/event_detail/分析シンポジウム-ゴム分析の基礎・分析事例・劣/
連絡先　〒107−0051　東京都港区元赤坂 1−5−26　東部ビル 1 階　(一社)日本ゴム協会　髙田顕弘〔電話：03−3401−2957，E-mail：kenkyuubukai@srij.or.jp〕

第 13 回分散凝集科学技術講座
分散・凝集のすべて―希薄系から濃厚系までの
あらゆる分散・凝集現象に関わる研究者・
技術者のための最新理論とテクニック―

主催　日本化学会コロイドおよび界面化学部会
期日　2026 年 12 月 3 日（木）・4 日（金）
会場　オンライン（Zoom）
ホームページ
https://colloid.csj.jp/
連絡先　日本化学会コロイドおよび界面化学部会「第 13 回分散凝集科学技術講座」事務局〔E-mail：dis.agg@colloid.csj.jp〕

日本金属学会オンライン教育講座
「医療用金属材料の基礎 2」

主催　(公社)日本金属学会
期日　2026 年 12 月 3 日（木）・4 日（金）
会場　オンライン
ホームページ
https://jimm.jp/event/online/2026/group_004.html
連絡先　〒980−8544　宮城県仙台市青葉区一番町 1−14−32　(公社)日本金属学会　セミナー・シンポジウム係〔電話：022−223−3685，E-mail：meeting@jimm.jp〕

2026 年度公益社団法人
日本金属学会関東支部講習会
『船舶・造船の未来を支える材料技術』

主催　(公社)日本金属学会関東支部
期日　2026 年 12 月 11 日（金）
会場　東京科学大学大岡山キャンパス
ホームページ
https://jimm.jp/information/branch_kanto/【関東支部】2026 年度 %E3%80%80 関東支部講習会（開催：2026−12−11/
連絡先　〒152−8550　東京都目黒区大岡山 2−12−1　南 8 号館 312 号室　日本金属学会関東支部事務局　福島　彩〔電話：03−5734−3141, E-mail：fukushima.a.9769@m.isct.ac.jp〕

「分析化学」特集
“地球環境の変容に挑む先端分析・計測技術”
の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は，環境分析研究懇談会と共同で「地球環境の変容に挑む先端分析・計測技術」と題した特集を企画しました．環境分析は現場における微量化学物質の動態解析から地球規模の循環プロセスの解明まで，極めて重要な役割を果たしています．

本特集号では，環境分析技術の開発とその応用を通じて地球環境問題の解決や動態解明に貢献する，幅広い研究論文の投稿をお待ちしています．奮ってご投稿ください．詳細は分析化学誌のホームページをご確認ください．

特集論文申込締切：2027 年 2 月 19 日（金）
特集論文原稿締切：2027 年 4 月 16 日（金）

「分析化学誌」特集
“イオンクロマトグラフィーの技術進展と新規開発”
の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は，イオンクロマトグラフィー研究懇談会（IC 懇）と共同で「イオンクロマトグラフィーの技術進展と新規開発」と題した特集を企画しました．

本特集号では，方法論の新規開発，試料の前処理・後処理技術，性能向上技術など，IC にかかわるイオン分離定量法だけでなく，IC の幅広く様々な分野への応用や適用例に関する論文も募集しております．幅広い分野からの論文投稿をお待ちしています．詳細は分析化学誌のホームページをご確認ください．

特集論文申込締切（延長）：2026 年 10 月 2 日（金）
特集論文原稿締切（延長）：2026 年 11 月 27 日（金）

「分析化学」編集委員会特集
“産学官連携で広がる分析化学”の論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」誌では，毎年第 6 号に「編集委員会特集」として特集号を企画しています．2027 年度（第 76 巻）の「編集委員会特集」のテーマは，『産学官連携で広がる分析化学』に決

定いたしました．高度に複雑化・多様化している社会課題の解決に向けて，専門分野や組織の異なる研究者同士が協働して研究を推進することの重要性がより一層高まっています
上記状況に鑑み，産学官，産学，学官，および産官での連携研究や，今後共同研究に発展させたい研究成果に関する論文を募集いたします．社会実装に至った研究開発事例，実用化を見据えた分析技術や分析装置・デバイスに関する研究成果，今後産学官での連携に発展させたい研究シーズに関する内容など，産学官連携研究の輪を広げる多数の論文の投稿をお待ちしております．詳細は分析化学誌のホームページをご確認ください．
特集論文申込締切：2026 年 10 月 3 日（土）
特集論文原稿締切：2026 年 12 月 5 日（土）

「分析化学」 年間特集“薬”論文募集

「分析化学」編集委員会

「分析化学」では 2010 年より年間特集を企画してきました．2027 年は「薬」をテーマとして募集を行います．

基礎・応用を含めた医薬品分析に関する“最新の知見”はもちろん，医薬品分析に関する“研究の背景”をまとめた総合論文や総説を広く募集します．

さらに，薬のみならず，薬により引き起こされる生命現象（例えば，薬の投与による生体内物質の変動など）を対象とした分析研究についても論文を募集します．薬と分析の関わりを幅広い視点から捉え，分析化学が担う役割を社会に向けて発信することを目的とします．

本特集に関わる論文はすべての論文種目で年間を通じてご投稿いただくことが可能で，審査を通過した論文は単行の特集号を除く「分析化学」第 76 巻（2027 年）合併号の冒頭に掲載する予定です．国内外，産学官を問わず，「薬」に関わる分析化学の研究・開発に従事されている多くの皆様方からの投稿をお待ちしておりますので，是非この機会をご活用ください．
特集論文原稿締切：2026 年 11 月 13 日（金）（第 2 期）

初めて書く論文は母語の日本語で！ “第 26 回初執筆論文特集”募集のお知らせ

「分析化学」編集委員会

「分析化学」編集委員会は，2027 年（第 76 巻）に第 26 回「初執筆論文特集」を企画し，下記要領で論文を募集します．卒研生，修士・博士課程院生並びに若手研究者の方々にとって，ご自分の研究成果を日本語で投稿できるよい機会です．なお，2025 年より本特集名を「若手初論文特集」から「初執筆論文特集」と変更しました．年間を通して論文原稿を受け付け，審査を経て掲載可になり次第随時掲載いたしますので，奮ってご投稿ください．

自分のアイデア，研究成果を自由に表現できる母語の日本語で，初めての学術論文執筆にチャレンジしてください．先生や先輩に指導をいただいて，論文作成法を習得する良いチャンスにもなります．これは大変貴重な経験であり，次の新たなステップにつながることでしょう．このチャンスは一度しかありません．多数の方々からのご投稿をお待ちしております．なお，詳細は「分析化学」誌 HP をご参照ください．

ぶんせき誌「技術紹介」の原稿募集

『ぶんせき』編集委員会

分析化学は種々の分野における基盤技術であり，科学や産業の発達・発展だけでなく，安全で豊かな生活の実現に分析機器が大きく貢献してきました．近年の分析機器の高性能化・高度化は目覚ましく，知識や経験がなくても，微量物質の量や特性を測定できるようになりました．この急速な発展は，各企業が持つ高度で多彩な技術やノウハウによって達成されたといっても過言ではありません．一方，高度化された分析機器の性能・機能を十分に発揮させるためには，既存の手法に代わる新規な分析手法が必要であり，高度な分析機器に適合した分析手法や前処理手法の開発が分析者にとって新たな課題となっています．また，分析目的に合致した高純度試薬の開発に加えて，測定環境の整備，試薬や水の取り扱いなどにも十分な配慮が必要です．極微量の試料を分析する際には，測定原理を把握すると共に，手法や操作に関する知識・技能を身に着ける必要があると考えます．

このような背景に鑑み，『ぶんせき』誌では新たな記事として「技術紹介」を企画いたしました．分析機器の特徴や性能，機器開発に関わる技術，そしてその応用例などを紹介・周知することが分析機器の適正な活用，さらなる普及に繋がると考えており，これらに関する企業技術を論じた記事を掲載することといたしました．また，分析機器や分析手法の利用・応用における注意事項，前処理や操作上のコツなども盛り込んだ紹介記事を歓迎いたします．これらの記事を技術紹介集として，『ぶんせき』誌ホームページ内に蓄積することで，様々な分野における研究者や技術者に有用な情報を発信でき，分析化学の発展に貢献できるものと期待しております．分析機器や分析手法の開発・応用に従事されている多くの皆様方からのご投稿をお待ちしております．

記

1. 記事の題目：「技術紹介」
2. 対象：以下のような分析機器，分析手法に関する紹介・解説記事
   1）分析機器の特徴や性能および機器開発に関わる技術，2）分析手法の特徴および手法開発に関わる技術，3）分析機器および分析手法の応用例，4）分析に必要となる試薬や水および雰囲気などに関する情報・解説，5）前処理や試料の取扱い等に関する情報・解説・注意事項，6）その他，分析機器の性能を十分に引き出すために有用な情報など
3. 新規性：本記事の内容に関しては，新規性は一切問いません．新規の装置や技術である必要はなく，既存の装置や技術に関わるもので構いません．また，社会的要求が高いテーマや関連技術については，データや知見の追加などにより繰り返し紹介していただいても構いません．
4. お問い合わせ先：日本分析化学会『ぶんせき』編集委員会〔E-mail：bunseki@jsac.or.jp〕